

表 4-2-1

地質総括表

地質年代				本調査での区分		層相・岩相	地形面との対応		「能代・森岳」図幅 大沢 他(1984,1985)	男鹿半島への対比 的場(1992) 白石・的場(1996)		
				記号	名称		記号	名称				
第四紀	完新世	後期	約1万年前	d	新期砂丘堆積物	砂層。厚さ50cmの古土壌を挟む。	D2	新期砂丘2	新期砂丘堆積物			
			約2万年前				D1	新期砂丘1				
			更新世	後期	約8万年前	a	沖積層	最終氷期以降の海進時の堆積物。 米代川では細粒砂とシルトを主体とし、礫層や軽石質火山灰を挟在する。	A3	沖積段丘3面	沖積層	沖積層
					----- Aso-4 -----				A2	沖積段丘2面		
					約12万年前				A1	沖積段丘1面		
					更新世	中期	約15万年前	td(L)	未区分低位段丘堆積物	(堆積物不明)	L	未区分低位面
	----- Aso-4 -----	tdL					低位段丘堆積物	基質が粘土～シルト分に富んだ河成砂礫層。 高位の面にはロームを上載するが、下位の面では直接黒色土が覆う。	L2	低位段丘2面		
	約15万年前	tdM4					中位段丘4堆積物	基質が粘土～シルト分に富んだ河成砂礫層。 下位に海成の砂層が分布することがあり、不整合関係にある。	M4	中位段丘4面	中位Ⅱ段丘堆積物 安戸六層	潟西層
	----- Aso-4 -----	dM	古期砂丘堆積物	厚さ最大20mの砂層。 一部でシルト層、泥炭層を挟在する。砂層の下部に洞窟テフラが広く分布する。			MD	古期砂丘	古期砂丘堆積物			
	----- Toya -----	tdM3	中位段丘3堆積物	基質が粘土～シルト分に富んだ河成砂礫層。 海浜に近い西部では砂分に富んだ海成の砂礫層に移行する。			M3	中位段丘3面	潟西層	安田層		
	約15万年前	tdM1・2	中位段丘1・2堆積物	砂分に富んだ海成の砂層～砂礫層を主体とする。 米代川以南の地域のM2段丘では、海成層の上位に河川性の砂礫層や潟湖成の砂・シルト互層を上載することがあり、より新しい堆積物によって覆われている可能性がある。			M2	中位段丘2面				
	更新世	前期	約50万年前	tdH1	高位段丘堆積物	主に基質が粘土～シルト分に富んだ河成砂礫層。H1段丘ではクサリ礫を含むがH2段丘は新鮮礫を主体とする。	H2	高位段丘2面	高位Ⅱ段丘堆積物	船川層		
			約170万年前	Ns	中沢層	やや固結度の低い砂岩を主体とし、酸性凝灰岩、シルト岩、および礫岩を伴う。	H1	高位段丘1面	高位Ⅰ段丘堆積物			
			鮮新世	後期	約500万年前	Ss	笹岡層	砂岩を主体とし、シルト岩、礫岩、酸性凝灰岩、および砂質凝灰岩を伴う。			中沢層	北浦層
						Ts	天徳寺層 (酸性凝灰岩 および砂質凝灰岩)	シルト岩を主体とし、砂岩、礫岩、酸性凝灰岩、および砂質凝灰岩を伴う。			天徳寺層 (酸性凝灰岩 および砂質凝灰岩)	
						(T3)						
				前期	Fm	船川層 (上部七座凝灰岩部層)	暗灰色泥岩。砂岩、酸性凝灰岩、および砂質凝灰岩を伴う。 上部に酸性軽石凝灰岩が分布する。	船川層 (上部七座凝灰岩部層)			船川層	
	(T2)											
An	素波里安山岩	紫蘇輝石-普通輝石安山岩および同質凝灰角礫岩。			素波里安山岩							
中新世	中～後期	Om	女川層	硬質泥岩を主体とし、砂岩、酸性凝灰岩を伴う。	女川層	女川層						